



### 本町から日本代表として出場！

#### 第2回大学軟式野球国際親善大会

第2回大学軟式野球国際親善大会が12月5日～12日、グアムで開催され、日本代表として、熊本県立大学2年生の浦田駿選手(新成区)が出場しました。

浦田選手は8月にあった京都の選考会で約90人の中から代表24人に選出。グアムでは現地の日本人学校で野球教室も開催。試合は4戦全勝し、浦田選手は「トップレベルの選手と野球ができ、あらためて野球の楽しさを実感した。この貴重な経験を生かして、今後も頑張っていきたい」と目を輝かせました。



8月の全国大会で勝利を目指す意気込み 国際親善大会に1番セカンドで出場し、打席に立つ浦田選手

### 地域の人とお餅つき

#### 南小校区世代間交流事業「ふれあいまちつき大会」

南小校区世代間交流事業「ふれあいまちつき大会」が12月15日、南部町民センターで行われました。

これは菊陽南小学校6年生と地域の老人会、青少年育成会、区長会などの協働交流事業で、37人が参加。児童たちは高齢者に習いながら、きねで餅をついたり、餅を丸めたりして、ぜんざいにして食べました。

参加した児童たちは「初めてきねを使って餅をつきいい経験になりました」「いろいろ教わりながら、餅を丸めることが楽しかった」と喜んでいました。



地域住民と餅をつく児童たち



1 真剣な表情で牛乳パックとストローで紙コプターをつくる児童  
2 集中して釣り糸をたらず児童  
3 開会式で自己紹介をするジュニアリーダー6人。ゲームの説明や児童たちの誘導などで活躍しました

### 元気クラブで遊ぶ！ ジュニアリーダー冬休みボランティア

ジュニアリーダー冬休みボランティアが12月26日、武蔵ヶ丘小学校の学童保育「元気クラブ」で行われ、ジュニアリーダー16人と児童約70人が一緒に活動しました。

ジュニアリーダーとは、町が募集した小学5年生から中学生で、年間通じて体験活動やボランティアをしています。いろいろな体験を通してリーダー性を養い、自分の可能性を広げていきます。児童は4班に分かれ、室内4つのエリアを順番に回り、「紙コプター作り」「紙コップブレーメン作り」「魚釣りゲーム」

「かるた大会」を体験。紙コプター作りでは、高く飛ばすように自分なりに工夫をこらし、アレンジする児童もいました。ジュニアリーダーは、いつもより大きな声を出して班を引率したり、なかなか読んだりと大活躍。児童もあつという間に仲良くなり、お別れの時は、別れを惜しんでいました。ジュニアリーダー4年目の宮本紋安さん(菊陽中2年)は「たくさん目の小学生と遊べる貴重な体験でした。また来年もやりたいです!」と充実した時間が送れたようでした。

### 防災にこそさまざまな視点 よかつれフェスタ2017

「よかつれフェスタ2017」は、女と男で築くいきいき菊陽が1月14日、図書館ホールで開催され、町内外から約250人が参加しました。オープニングは菊陽中学校合唱部26人が、大津町在住のピアノ講師・福居悠子さんが熊本地震の復興を願って作詞作曲した「いつの日か笑顔に」他2曲を熱唱。みずみずしい歌声で聴衆を魅了しました。昨年4月1日施行の「菊陽町男女共同参画推進条例」を、菊陽町男女共同参画審議会とさんさんの有志によるパフォーマンスを交えて紹介しました。



1 知恵を出し、生きる力を育みましょうと語る柳原志保さん  
2 イクメン・カジダンフォトコンテスト、グランプリ受賞の鳩野明日香さん  
3 菊陽中合唱部によるオープニング。「いつの日か笑顔に」など2曲を披露しました

### マジックに驚きの声

#### 菊陽町子ども会大会

平成28年度菊陽町子ども会大会が12月4日、光の森町民センターで開催され、317人が参加しました。今回は菊陽町出身で出張マジックを行っている「やのっち」さんを招きマジックショーを開催。マジックショーの定番でもあるカードマジックやイリュージョンマジックなど、目の前で起こる不思議な現象に子どもたちはもちろん保護者も驚きの連続でした。

参加した吉戒香音さん(緑ヶ丘)は「とても面白かった。来年もやってほしい」と笑顔で話しました。



助手の女性の帽子からハトを出したマジシャンのやのっち(右)

### 9人の町文化財ガイド誕生

#### 菊陽町文化財ボランティアガイド養成講座

菊陽町文化財ボランティアガイドの会(矢野誠也会長)主催、生涯学習課・南部町民センター共催で、平成28年度菊陽町文化財ボランティアガイド養成講座が12月6日に開かれ、新たに9人のガイドが誕生しました。

当日は、菊陽町全域の文化財の中から主なものに絞って午前の部の講義と午後の部の現地研修を実施。終了後、受講者に修了証が交付されました。今後はボランティアガイドとして、活動が期待されます。



頼山陽碑の前で研修を受ける参加者の皆さん



## 和楽器&津軽三味線がやってきた

### 武蔵ヶ丘北小学校スクールコンサート

スクールコンサートが12月13日、武蔵ヶ丘北小学校で開催されました。関西を拠点に活動する和楽器演奏集団「独楽」と熊本市出身の津軽三味線デュオ「火の國屋」が出演。熊本地震を経験した子どもたちの心の復興を支援する「アートキャラバンくまもと」(熊本県立劇場主催)の一環として行われました。公演では和太鼓や琴、しの笛、三味線などで熊本のわらべうたなどが披露され、和楽器独特の音色と演奏家の軽妙なトークで会場は盛り上がりました。



最後に児童や先生も参加して「ソーラン節」を演奏しました

## 芸術作品が集結

### アート・フェスタ in きくよう

アート・フェスタ in きくようが12月1日~4日、図書館ホールとホワイエで開催されました。町民と小・中学生・高校生の絵画や書道、工芸、文芸、写真、彫刻など51種類の作品約千点を展示。期間中1,029人が来場し、芸術性の高い作品に感嘆の声をあげて感動していました。山部幸一実行委員長は「町内の芸術作品を昨年よりも多く集結させる第2回の催しを開催できてほっとしています。今後も芸術の輪を広げられるよう継続したい」と意気込んでいました。



展示された切り絵をじっくり鑑賞する来場者

## 道路がきれいになりました

### 測友会のメンバーがボランティア清掃活動

菊池郡市の測量業者有志でつくる測友会(松下益巳会長)の会員8人が11月26日、原水地区の町道の草刈りなどの清掃活動を行いました。

これは同会の地域貢献の一環で測量・設計技術の向上に努め、菊陽町の発展に貢献したいという思いから行われたものです。約3時間の作業後には、軽トラック8台分の草木とごみが集められました。作業後には道路が見違えるように美しくなりました。松下会長は「今後も町のために頑張っていきたい」と話しました。



除草活動を行う測友会会員

## 南小学校へバザー収益金を寄贈

### 菊陽町地域婦人会による子ども支援活動

菊陽町地域婦人会(酒井恵会長)は11月30日、すぎなみフェスタ2016で婦人会員参加によるバザーの収益金の一部5万円を、学校支援金として菊陽南小学校に届けました。菊陽南小学校の渡辺浩文校長から「学校の教育活動に有効に使わせていただきます」とお礼の言葉がありました。

酒井会長は「婦人会の学校支援金活動も4回目になります。来年度以降も次世代を担う町内の小中学校の子どもたちを応援していきたいです」と話しました。



収益金を寄贈する会長と副会長、渡辺浩文校長

## 知られざる真田幸村の世界

### 歴史談議「真田十勇士と真田幸村」

歴史談議「真田十勇士と真田幸村」が12月25日、菊陽町図書館で開催されました。講師は、同館の元司書で歴史愛好家の家入義朗さん。「日本一の兵」といわれた幸村の生涯や語り継がれている真田十勇士の話を中心に、その歴史的背景などを詳しく語りました。会場には書籍やゲームなどの関連資料も展示され、来場者は幸村談議に花を咲かせました。特に、段ボールで作られた真田幸村の甲冑模型は大人気で、笑顔で記念撮影をする親子連れの姿も見られました。



真田幸村について熱く語る歴史愛好家・家入義朗さん

## 炊き出しで英気を養う

### 年末特別警戒活動・交通事故防止運動出発式

交通事故防止運動出発式が12月21日、大津警察署で行われました。これは、犯罪や交通事故が多発する年末の時期に、警察と地域が一体となり、犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりを目指すために行われているもの。毎年、年末特別警戒活動にあたる大津警察署員に対し、菊陽町交通安全母の会(酒井恵会長)が、豚汁、おにぎりなどの炊き出しを行っています。この日、母の会からの温かい炊き出しに、署員は年末特別警戒活動に向け、英気を養っていました。



母の会からの温かい炊き出しを受ける警察署員

## きれいな歯を作ろう!

### 虫歯、歯肉炎ゼロを目指して

学校歯科医師の石川博文先生による講話と森淑子菊陽町歯科衛生士によるブラッシング指導が12月1日、菊陽北小学校で行われました。

今回は「虫歯、歯肉炎をなくそう!」という目的で同校5・6年生を対象に約80人が受講。講話で石川先生は「虫歯は飲食物、虫歯菌、歯の質、時間の4つの条件がそろって発生する」と説明し、「そのため、バランスの良い食生活とともに、毎日の効果的な歯磨きとフッ化物洗口が重要です」と話しました。

森歯科衛生士は、実際に鏡を見ながら行う正しい歯ブラシの当て方を児童に丁寧に教えていました。児童たちは、普段、自分の口の中をじっくり見る機会がないので興味津々の様子でのぞき込んでいました。児童は「歯磨きの大切さが分かった。しっかり磨いていきたい」「ただ磨いているだけでは汚れは落とせず、ポイントを踏まえて磨くことが必要だということが分かった」などの感想を話しました。

効果的な歯みがきと週1回のフッ化物洗口で、虫歯ゼロを目指しませんか。



1 森淑子歯科衛生士から歯磨きの指導を受ける児童 2 鏡を見て確認しながら一生懸命歯を磨く児童 3 石川博文先生による講話